

# ハダニ

## 知っておきたい ハダニの特徴

まずハダニの特徴を知ることが、きつちり防除するための第一歩になる。

### 極めて小さい

ハダニは〇・五mm前後と極めて小さい害虫なので、作物がちよつとおかしいと思っても、その原因がハダニだと確認できないことが多い。病気や要素欠乏、水不足などと勘違いしてしまい、手遅れになることも多い。「原因不明はハダニを疑え」ということわざもある。とくに五〇代、六〇代と歳をとつてくると、小さいために見えない。そのため判断を誤つてしまつてことがある。さらに枝葉に隠れてしまい、薬液が届かず、防除効果が上がりにくい。

増殖率が高い  
増殖率も高く、好適条件の二五度では約一〇日で卵から親になり、一雌当たりの産卵数は一〇〇〜一五〇と増殖率が高い。

しかし自然条件ではこれほどの増殖率にはならない。それは雨や低温といった気象条件や天敵たちが働いて、ハダニがそれほど増えないような仕組みがあるからだ。「好適条件」というのは、エサが豊富で、雨が降らず、天敵もいない、といった条件下のこと。

ところが、農作物を栽培しているときに、この好適条件に近い条件を作つてしまうことがあるのだ。すると、これまで出たことのない作物でハダニの被害が起きることがある。たとえば、それまで露地で栽培していたものを雨よけハウスで作りはじめ、思わぬハダニの被害にあつたといったことだ。その他、殺虫剤を散布することで天敵が除かれてしまい、ハダニが我が物顔で増殖して悪さをするということもある。

よく歩き、高いところを好み、空を飛ぶ

ハダニは小さいくせに歩くことをいとわない。寄生していたエサ植物がおれたりすると、すぐに別のエサ植物を探して歩き出す。ひたすら歩く。しかも高いものがあると登りたくなるという性質が俄然強まる。高いところに登つて糸を吐いて風に乗ることもできる。ハダニの移動は歩きと飛行の組合せなのだ。

### 殺虫剤は効かない

防除をする上で気をつけることは、ハダニは昆虫ではないということ。足が八本あるクモの仲間に近い。だから多発するとクモの巣状に糸が張りめぐらされるし、糸を出して風に乗って移動することもできる。基本的には殺虫剤ではなく「殺ダニ剤」で防除することになる。

農作業がきつかけで被害を招くことがある

る。

## 葉かき・整枝の直後は 防除の適期

葉かきや整枝はハダニの分散を促して、被害を広げたりもするのだが、同時に、薬剤の散布適期でもある。下葉摘みや整枝、剪定の後は葉っぱや枝がすいているので、小さいハダニにも薬液がかかりやすいのだ。それも作業後二〜三日の散布がよい。という

のも、新葉はまだ伸び出していないし、ハダニもまだ定着していないのでウロウロしていて、防除の効率も上がるからだ。

ハダニの防除は、このように農作業とセットに行なつと、効率をあげることができる。

(ハダニについて詳しくは『ハダニおもしろ生態とかしい防ぎ方』をご覧ください)

## よく出る病害虫対策知恵袋

葉かき作業などのときの上手な残渣の処分のかた

